

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3577300308		
法人名	社会福祉法人 平生町社会福祉協議会		
事業所名	ひらお・みんなの家		
所在地	山口県熊毛郡平生町大字平生村618-2		
自己評価作成日	平成24年10月19日	評価結果市町受理日	平成25年4月3日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成 24年 11月 16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

広々とした開放的な雰囲気の中で、お一人おひとりご自分のペースを大切に過ごしていただいています。職員は常にお客様を人生の先輩として尊敬し、お一人おひとりに寄り添い、家庭的雰囲気を大切にした穏やかなケアの提供をしています。お客様の生活歴から、馴染みなことお好きなこと大切にしています。宿直、夜勤、緊急時の対応が整備され、職員の安心感に繋がっていると共に、お客様にとっても他の職員との馴染みの関係を作っています。

法人内部研修の年間計画があり、2ヶ月に1回テーマに沿って外部講師を招かれるなどして全職員参加で実施されています。事業所内で、自主研修会(任意参加)を年4回開催され、毎回半数以上の職員が参加されています。事前アンケートで職員から希望を聞いて、テーマを決めて学んでおられ他、外部研修への参加への支援や日常業務の中で管理者や先輩職員が助言や指導をされ、職員が働きながら技術や知識が身につくよう職員を育てる取り組みをしておられます。日曜日の昼食と毎日の朝食、夕食を事業所で食事づくりをしておられます。畑で利用者と一緒に収穫された野菜や差入れの野菜などの旬の食材を使用して、利用者と共につくっておられ、利用者の食事が楽しみなものになるように支援されています。職員と利用者の関係が和やかで、職員間のチームワークも良く、利用者へのさり気ない支援で、利用者は穏やかに過ごされています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き生きと働けている	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を基本に事業所独自の理念を全職員で話し合い、介護理念として作り共有している。	事業所独自の理念をつくり、事業所内に掲示して共有し、ミーティング時に理念に沿って実践ができていないかを話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との関係づくりを運営推進会議を通じて徐々に構築出来るよう努めている。	自治会の清掃作業に職員が参加している。地域の祭り(十七夜祭り)に家族と一緒に参加し、食事会や花火見物、祭りの露店での買い物などを楽しんだり、法人主催の祭りでも地域の人と交流している。法人の就労支援活動に参加している地域の人と一緒に畑づくりをしたり、お茶を飲んで交流する他散歩時に出会う近所の人と挨拶を交わす等日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護についての悩みを話し合える場を設け、地域の相談窓口として介護者の支援にもあたっている。	/	/
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価は自分たちが行っているサービスを振り返り、課題を確認する機会と位置付け、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	管理者が職員一人ひとりから項目について聞き取りをしてまとめている。自己評価の過程で新人職員が増えたことにより、再度、認知症ケアについての理解を深める必要があるという課題がみつき、参加希望者による自発的な研修会を年4回(内2回実施済み)開催するなど具体的な取り組みをしている。外部評価結果については出来る事から改善に取り組むように努めている。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の報告や行事の話し合いが行われている。	自治会長、民生委員、町職員、家族、地域包括支援センター職員、法人関係者、事業所主任、管理者等の参加で2回開催している。利用者の状況や事業所の取り組み(活動、行事、自主研修、外出計画)外部評価結果などを報告し、意見交換をしている。意見を活かすまでには至っていない。	<ul style="list-style-type: none"> ・開催回数の検討 ・会議の活かし方の工夫

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃からサービスや制度について相談しやすい連携体制が構築されており、サービスの質の向上に取り組んでいる。	法人と町の担当課とは日頃から連絡を密に取っている他、運営推進会議で情報交換したり電話や直接出向いて協力関係を築くよう取り組んでいる。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員一丸となって抑制や拘束の無いケアに取り組んでいる。玄関・居室とも、日中は鍵をかけておらず、出入り自由となっている。	事業所独自のマニュアルを作成し、職員が常に確認できるようにしている他、外部研修に参加して学び全職員が共通理解した上で抑制や拘束をしないケアに取り組んでいる。日中は玄関の施錠はしていない。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待には常に関心を持ち、事業所内では職員一同共通認識を持ち細心の注意を払い防止に努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修を行って知識を深めていくようにはしているが、関係者と話し合い、活用できるような支援には至っていない。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明をし、理解・納得してもらっている。家族の不安や疑問点には常に相談しやすい環境に努めている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口、担当者、外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。法人本部のサービスモニター3名が、第三者委員の役割をするとともに、事業所を訪問して介護相談員の役割をしている。	相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知している。運営推進会議時、面会時、電話、介護計画の見直しの時などに家族からの相談や意見を聞いてい運営に反映させるように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	なるべく職員の意見や提案を聞こうとはしているが、そのような機会を設ける事が難しい。	2ヶ月に1回程度実施しているミーティングの中で、職員の意見や提案を聞く機会を設けている他、日常業務の中で常に意見交換を行い行事などの提案を起案書に作成し、管理者が代表者に伝え運営に反映させている。利用者の居室を分かりやすくするためのさり気ない飾りをつけることや、職員の勤務体制について、細やかなシートを組むなど意見を反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を導入している。評価結果を個人に伝え、各自が向上心を持って働けるような環境作りに努めている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画を作成し、研修委員が中心となって推進している。法人が行う新人研修や事業所内研修、事業所が実施する部内研修や外研修にも参加している。また自主研修会も開催している。OJTを導入している。	外部研修は段階や必要に応じて勤務の一環として参加の機会を提供している。受講後は復命報告をし、資料を閲覧できるようにして共有している。法人研修は年間計画があり、2ヶ月に1回テーマ別に外部講師を招くなどして全職員参加で実施している。内部研修として自主研修会(任意参加)を年4回開催し、毎回半数以上の職員が参加している。職員に事前アンケートし、希望を聞いてテーマを決め職員が交代で講師となり実施している。日常業務の中でも常に管理者や先輩職員が助言や指導をし、働きながら学べるように取り組んでいる。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	山口県宅老所・グループホーム連絡会に加入し、研修会に参加したり、他のグループホームと相互訪問を行い情報交換に努め、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に家庭訪問をし、本人や家族の気持ちを聞き、安心して生活できるよう配慮している。入所前に体験利用もしていただきながら、除々に馴染んでもらえるよう努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に家庭訪問をし、本人や家族の気持ちを聞き、安心して生活できるよう配慮している。事業所の見学や体験利用もしていただいている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前に家庭訪問をし、本人や家族等との話し合いの場を設け、家族の意向をお聞きし、その情報を職員間で周知徹底に努めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事作りや食器洗い、洗濯物を干したり、たたんだり、掃除、散歩、団欒など、日々を共に暮らしながら、体験や喜怒哀楽を共有し、本人から学んだり支え合う関係を築いている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の意向を汲み取りながら、家族へその思いを伝えている。職員と一緒に課題にも取り組むようにしている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人が親戚や友人に手紙を書く場合には、フォローしながら支援している。	以前の居住地の近所の人や知人、友人などの来訪がある他、馴染みの商店での買い物や散歩がてらに自宅周辺に出かけたりしている。家族の協力で、自宅の庭の草取り、墓参り、買い物、受診、外泊、外食、馴染みの美容院の利用など、馴染みの人や場との関係が途切れないように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の会話に常に耳を傾け、皆様が和やかな雰囲気になられるよう配慮している。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他機関との連携を深め、相談等あれば各々の窓口を紹介している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の何気ない会話や様子から思いや意向を把握し、朝礼やミーティングで職員間で共有しながら、本人本位に検討している。	センター方式のシートを活用する他、日常の関わりの中で本人から聞きとったことや気付いたことを記録して、思いや意向の把握に努めている。本人からの聞き取りが困難な場合は家族から聞いたり、日々の利用者の行動や表情から汲み取り、ミーティングで話し合っ本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	その方の生活歴や意向に沿うように介護計画を立てている。また、職員の対応を統一できるように情報の共有に努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりのケースに、様子や心身状態等記述し、その情報を職員間で把握し、共有している。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は、作成にあたり職員全員が利用者者に目を向けるという観点から、担当制にしている。日々の気づき、身体の変化等について話し合い、その意見を計画に反映させている。	本人の思いや家族の意向、主治医の意見などを参考にし、ミーティングの中でカンファレンスを開催し、利用者を担当する職員を中心に話し合い、意見を反映させて介護計画を作成している。3ヶ月に1回モニタリングを実施し、利用者の状態の変化に応じてや認定期間に合わせて見直しをしている。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ケースに、各々のバイタル、体調の変化、食事量、排泄、水分量等細かく記述している。夜勤者との申し送りや朝礼等に情報の共有を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新たに生じるケースに対してミーティングを行っている。なるべく柔軟な支援が出来るよう努めている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事にはなるべく参加していただくよう努めている。社会とのかかわりを持ってもらうよう努めている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者は各々にかかりつけ医を持っており、事業所の協力医である内科医は週1回、精神科医は2週間に1回訪問診療を行い健康観察や健康管理にあたっている。	利用者それぞれのかかりつけ医への受診の他、協力医療機関からの往診がある。内科や精神科医の往診は個別の部屋で行っている。他科受診は家族の協力を得て行い、情報提供として利用者の1週間分のバイタルサインや、日々の様子を記録した書類を医師に渡している。職員が同行した時は、家族に受診の状況を報告するなど、かかりつけ医や家族との関係を築きながら適切な医療が受けられるよう支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	朝礼や申し送り時にその日の状況、体調の変化、注意点等、全職員に伝え、周知徹底に努めている。体調の変化・異常があれば早目に家族に知らせ、受診につなげるように支援している。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院されると、情報交換や相談に極力努めるようにしている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療連携体制をしており、利用開始時に方針を説明している。かかりつけ医の意見や本人・家族の意向を尊重し、その都度話し合いを行い対処している。	契約時に重度化や終末期に事業所のできる対応について家族に口頭で説明している。実際時重度化した場合は、その都度、家族や看護師、職員等で話し合い、かかりつけ医の意見を聞いて、方針を共有して支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	各マニュアルが整備され、マニュアルに沿って勉強会を行い、職員全員共有している。ヒヤリ・ハット事例や意向を尊重し、その都度話し合いを行い対処している。	ヒヤリはっと、事故報告書があり、事故発生時にその場にいた職員一人ひとりが対応策を考えて報告書を作成した後で、主任が助言を記入し、全職員で共有して、介護計画に反映させるなど、一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。応急手当や初期対応の定期的な訓練は実施していない。	・応急手当や初期対応の定期的な訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施している。法人内の協力体制は出来ているが、地域への働きかけは検討中である。	年2回、夜間想定火災時避難訓練を利用者も参加して実施している。地域への働きかけをしているが協力体制を築くまでには至っていない。	・地域との協力体制の構築
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ誘導には自尊心を失う声かけはしないよう配慮している。	利用者を人生の先輩として敬意を払って接し、誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応をしないことを徹底している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	起床時の洋服選びや飲み物の嗜好、就寝時間など、本人の思いを大切に自己決定できるように支援している。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	こちらですべて決めるのではなく、皆様がどのようにされたいか意向をお一人おひとりに伺いながら支援している。決して無理強いはない。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時、洋服選びは本人に任せている。就寝時は持参されている化粧水で顔を整えられている。女性としての身だしなみには配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事はお一人おひとりの起床時間に合わせて個別に対応している。夕食は職員も一緒に食べ、調理や片づけ等出来ることは職員と一緒にしている。	日曜日以外の昼食は配食を利用している。畑で収穫した野菜や差入れの野菜など旬の食材の使用や、利用者の食べたいものを聞いて食材の買い物をし、朝食と夕食を事業所で調理している。利用者は野菜の下ごしらえやテーブル拭き、食器洗いなど出来ることを職員と一緒にし、朝食と夕食は、職員と利用者が同じものを食べている。正月のおせち料理を利用者と一緒につくったり、彼岸にはおはぎ、花見や七夕には寒天で和菓子、誕生会やクリスマスにはケーキをつくって楽しめるよう支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を毎食後記述し、お一人おひとりの状態の配慮に努めている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後お一人おひとりに応じた口腔ケアの支援をしている。義歯の洗浄、保管についても支援している。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	お一人おひとりの排泄のリズムの把握に努め、失敗されないよう早目に声かけをし、トイレでの排泄に努めている。	排泄チェック表を活用し、排泄パターンを把握して、一人ひとりに応じた声かけや誘導でトイレでの排泄が出来るように支援している。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事に食物繊維の多い物を取り入れ、調理も工夫している。また、腸の動きが良くなるような運動も取り入れている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴はお一人おひとりの意向を確認し、無理強いはいしない。体調や状況によっては、午後からの入浴の支援もしている。	9時30分から11時30分まで毎日入浴が可能で、午後入浴にも対応し、希望や体調に合わせてゆっくり入浴ができるよう支援している。入浴したくない人には、無理強いしないで、職員が交代したり声かけに工夫して支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	今までの生活習慣を大切に、午睡される方にはその都度休んでいただいている。就寝時間も今までの生活リズムを大切に、本人の意向に沿った支援をしている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をファイルし、薬の目的や副作用について把握し、お一人おひとりに合わせた服薬支援をしている。必要な情報は主治医にフィードバックしている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までの生活歴を把握し、今出来ることに着眼する。タオルたたみ、草取り、編み物、散歩、唱歌など自信を再び取り戻せる場作りに努めている。	テレビ視聴(相撲、お笑い、時代劇、歌番組) DVD視聴(動物、歌謡ショー、お笑い)、新聞読み、編み物(マフラー、暖簾)裁縫(雑巾縫い)早口言葉、漢字ドリル、計算ドリル、書道、畑づくり、草とり、食器洗い、洗濯物たたみ、野菜の水やりなどの楽しみ事や活躍できる場面をつくり、利用者が張り合いのある暮らしができるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所への散歩、買い物、ドライブ、花見、花火大会など戸外に出るられよう支援している。花火大会では、家族と共に鑑賞していただけるよう支援している。	散歩、買い物、ドライブ、花見などの他、家族の協力を得て、外食、外泊、墓参り、美容院の利用、自宅の草取りなど戸外に出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設でお金を所持したり使うことがないため、家族が管理している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から電話があれば、本人に代わり話をしてもらうこともある。手紙は書きたい時に自由に書いていただいくよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	開放的なリビングには、ソファが置かれて利用者同士の団欒が行われている。リビングからテラスへの移動も可能で、テラスにはベンチが設置されており気分転換に役立っている。	共有空間は広く明るく、高さの異なるテーブルや椅子、ソファを配置しており、利用者一人ひとりの居場所となっている。低いテーブルを囲んで、ソファにゆったりと座り、気の合った利用者同士が思い思いに過ごしている様子が伺えた。床暖房が使用しており、温度、湿度、換気、音などに配慮して居心地よく過ごせるように工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その方の思いを大切し、思い思いに過ごせるように自由に共有の空間や部屋など行き来できるよう支援している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の写真やぬいぐるみ等が飾られ、使い慣れた家具やソファを配置し、居心地良く過ごせるようにしている。	ダンス、机、椅子、ソファ、テレビ、生活用品(使い慣れた化粧品など)や好みのものを持ち込んで、家族や親族の写真、家族からの手紙、誕生日のメッセージ入りの色紙などを飾り、利用者が居心地よく過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯物を干したり、たたんだり、部屋の掃除等を職員と一緒にしている。なるべく本人の意向を尊重した支援をしている。		

2. 目標達成計画

事業所名 ひらお・みんなのいえ

作成日：平成25年 4月 2日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	5	運営推進会議の開催回数が少ない。	開催回数を増やし確実に開催する。	開催回数を増やすとともに、会議の内容を充実させサービスの向上に繋がるよう努める。	1年
2	35	災害時等、地域との協力体制の構築が希薄。	地域との協力体制の構築を図る。	地域との協力体制の構築と災害マニュアルの見直しを図る。	1年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。